

令和6年度シラバス

教科	公民科		科目	公共	単位数	2
学年	1年生	コース	共通			
使用教科書	高等学校 新公共（第一学習社）					
副教材等	新公共ノート（第一学習社）・ライブ！2023 公共、現代社会を考える（帝国書院）					

1 学習目標と評価の観点の趣旨

学習目標	人間と社会のあり方についての見方・考え方はたらかせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野を持ってグローバル化する国際社会に主体的に生きるにあたって、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
評価の観点の趣旨と定期考査の配点基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題について考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、事実をもとに多面的・多角的に考察して公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に入れ、国家及び社会の形成者として、現実社会の諸課題について、主体的に解決しようとしている。
	定期考査の配点基準（目安） 60～70%	定期考査の配点基準（目安） 30～40%	

2 学習計画と評価方法

学期	単元	主な学習活動	考査範囲
1 学期	第1編 公共の扉	<ul style="list-style-type: none"> 互いが高めあえる社会的な存在であることを理解し、公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 人間としてのあり方生き方についての諸資料や先哲の生き方などを参考に、公共的な空間でどのように生きるかについて考えている。 公共的な空間における基本的原理などを理解し、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	中間考査
	第1章 公共的な空間をつくる私たち		
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方		
	第3章 公共的な空間における基本原理		

2 学期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	<ul style="list-style-type: none"> 法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解し、法をよりよいものに変えていくために、基本的な人権をさまざまな立場に立って考察している。 契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解し、現代の諸課題の具体的事例をもとに、主体的に解決しようとしている。 検察審査会や国民の司法参加の意義などの具体的な主題を設定し、主題を追究・解決するために協働・考察・構想したことについて、論拠をもって表現している。 	期末考査
	第1章 法的な主体となる私たち	<ol style="list-style-type: none"> 法や規範の意義と役割 契約と消費者の権利・責任 司法参加の意義 	
2 学期	第2章 政治的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> 選挙権年齢が18歳以上であることをふまえ、選挙の意義や政治的無関心の危険性などを理解している。 国際平和の維持・安定のための国際連合などの国際機関の役割や課題について、広い視野に立って考察する。 日本国憲法第9条（平和主義）をふまえ、幸福・正義・公正などに着目し、多面的・多角的に考察している。 持続可能な開発（SDGs）の観点から、国際社会の安定について、国民・国家・国際レベルで考察している。 	中間考査
	第3章 経済的な主体となる私たち	<ol style="list-style-type: none"> 政治参加と公正な世論形成 国際社会と国家主権 日本の安全保障と防衛 国際社会の変化と日本の役割 	
3 学期	第3章 経済的な主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> 近年の雇用事情の変化や労働問題、AIの進化の影響について、多面的・多角的に考察し、自身の将来のあり方について考えようとしている。 市場機能の限界に対する公共財の供給についての政府の役割や各種金融機関及び日本銀行の役割、財政政策の意義などを理解し、それらの課題の解決について主体的に考えている。 	期末考査
	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化の進展により、貧困・格差問題などの解決が地球的な課題となっていることを理解する。 地理など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福・正義・公正などに着目し、国際協力のあり方や国際協調の重要性の観点から、日本の役割について、自分自身の問題としてとらえ、主体的に解決しようとしている。 「第1編 公共の扉」で学んだことを基調とし、地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。 	学年末考査
<p>各学期の観点別学習状況の評価の方法</p> <p>知識・技能＝定期考査およびワークプリント 思考・判断・表現＝定期考査およびレポートの作成、発表、グループでの討議 主体的に学習に取り組む態度＝ワークプリントおよびレポートの記述内容、授業中の発表</p> <p>学年末の評価</p> <p>各学期の成績から算出して観点別学習状況評価と評定を出します。</p>			